

学校だより

新潟県立高田特別支援学校白嶺分校
学校評価臨時号
令和6年2月22日

令和5年度 学校評価アンケートの結果をお伝えします。

12月に実施しました学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
保護者の皆様よりいただきましたご意見と、職員アンケートの結果を受け、職員で検討し、それぞれ「よい点」、「要望や改善点」についてまとめました。
今後の学校運営に生かしていきたいと考えます。今後ともご支援、ご協力ください。よろしくお願いいたします。

○ 保護者が学校に対して

A:そう思う B:少しそう思う C:あまり思わない D:全く思わない (%)

	評価項目	評価			
	(評価項目に対して当校が実施してる事項)	全校割合			
1	学校は、学校の教育や方針について十分に説明している。	A	B	C	D
	(保護者会、個別面談、学校だより、白嶺分校だより、進路通信の発行)	76.5	17.6	5.9	0.0
2	学校は、お子さんの実態やニーズに応じて個別の指導計画を作成し、指導を行っている。	A	B	C	D
	(個別の指導計画の作成、共通理解、個別の指導計画に基づいた支援・評価、個別の教育支援計画の作成)	64.7	35.3	0.0	0.0
3	学校は、家庭や地域生活での生活に生かせる学習を設定し、必要な指導を行っている。	A	B	C	D
	(日々の学習活動の設定・指導)	70.6	23.5	5.9	0.0
4	学校は、学習や作業にねばり強く取り組み、自分の課題に立ち向かう力を育てる指導を行っている。	A	B	C	D
	(日々の学習活動)	82.4	11.8	5.9	0.0
5	学校は、人と関わる力や自他を尊重し思いやる心を育てる指導を行っている。	A	B	C	D
	(会話の続け方や話しかけ方の学習。職場実習等での人との関わり。外部講師による人権学習。友達のよいところ探し等の活動)	64.7	29.4	5.9	0.0
6	学校は、「働くこと」に対する見方を広げ、働く意欲を高める指導を行っている。	A	B	C	D
	(校内・職場実習や日々の作業学習。学級での係活動。進路学習)	70.6	23.5	5.9	0.0
7	学校は、一人一人の生徒に合った進路選択ができるように、生徒への指導や保護者への助言・情報提供を行っている。	A	B	C	D
	(保護者会や進路通信での情報の提供。個別懇談や電話連絡での実習先や進路に関する相談)	70.6	17.6	11.8	0.0
8	学校は、生徒が基本的な生活習慣を身に付け、自らの健康を管理する力を育てるための指導を行っている	A	B	C	D
	(養護教諭や担任による個別指導。個別面談や「健康のお知らせ」等での課題のお知らせ。保健だよりの発行)	64.7	29.4	0.0	0.0
9	学校は、生徒の声に耳を傾け相談に応じている。	A	B	C	D
	(全職員による生徒の見守り・情報共有。学期毎のアンケートの実施。教育相談)	70.6	23.5	5.9	0.0
10	学校は、生徒が、やり遂げた気持ちや自分が必要とされているという気持ちをもてるような活動を設け、指導を行っている。	A	B	C	D
	(学校行事で役割を果たす経験や皆で一つのものを作り上げる経験の積み上げ。頑張りや個々の活躍を認め合う場の設定)	70.6	23.5	5.9	0.0

11	学校は、社会のルールやマナーを守ろうとする態度を育てる指導を行っている。	A	B	C	D
	(身だしなみや振る舞いに関する指導。会話やコミュニケーションのとり方の指導。公共交通機関の利用・マナーの指導)	64.7	35.3	0.0	0.0
12	学校は、生徒が集団の中で責任を果たしたり、仲間と協力したりする力を育てる指導を行っている。	A	B	C	D
	(学級内での係や当番活動。宿泊学習。校外学習・学習発表会等の行事での役割)	62.5	31.3	6.3	0.0
13	学校は、学校だより、白嶺分校だよりやデイリーライフなどで、学習内容と学校の様子を知らせている。	A	B	C	D
	(各種たよりの発行。デイリーライフでの情報交換)	70.6	11.8	17.6	0.0
14	学校は、障害児・者や白嶺分校の教育を地域に正しく理解してもらうために努力している。	A	B	C	D
	(新聞報道による学校行事や学習活動の紹介。オープンスクールや学校体験説明会での理解啓発活動)	58.8	23.5	11.8	0.0
15	学校は、保護者の連絡や相談、質問などに対して誠意をもって対応したり、相談に応じたりしている。	A	B	C	D
	(担任や進路指導担当、養護教諭等複数の教員での協議・対応)	58.8	23.5	17.6	0.0
16	学校の教職員は、生徒の権利や人権を尊重した指導や支援に努めている。	A	B	C	D
	(日々の学校生活全般の指導。教育相談)	64.7	23.5	11.8	0.0
17	学校は、学校のいじめ問題に対する取り組みを十分に行っている。	A	B	C	D
	(学校いじめ対策基本方針を含むいじめ問題に対する取組の方針の説明、県の相談窓口などの紹介、学校の状況や実態の説明)	58.8	35.3	5.9	0.0
18	学校の施設や設備などの教育環境が整えられてきている。	A	B	C	D
	(各教室にエアコン設置完了。網戸設置。ICT機器の整備。今年度も糸魚川白嶺高等学校の体育館、グラウンド、調理室を利用。)	58.8	35.3	5.9	0.0

〈よい点〉

○項目 2、8、11 で全員の肯定的評価が得られた。個別の指導計画に基づいた指導、社会参加に向けた指導についてご理解いただけていると考える。

○項目 4 「学校は学習や作業にねばり強く取り組み。自分の課題に立ち向かう力を育てる指導を行っている。」にA評価をした保護者が82.4%。他にも多くの項目でA、Bの肯定的評価を合わせた割合が80%以上となっている。

〈要望や改善点〉

○項目 7 に関して、外部への働きかけや、理解・啓発について、より多くの実践を求めていることが伺えた。

○項目 17 に関して、「いじめ対策」に繋がる取組や活動、今行っている実践を、保護者にも伝えるように紹介する必要があると考えられる。

○項目 18 に関しては、糸魚川白嶺高等学校の体育館、グラウンドの使用を週 1 回行った。またそれ以外にも、コロナ禍でなかなかできなかった調理実習を施設をお借りしてできた。今後も施設の借用について理解をいただくとともに、県への働きかけを継続していく。

○項目 5、14 に関して、集団での活動について、保護者へ学校の実践の紹介の必要性があると考えられる。集団活動における人と関わる力や自他を尊重し、思いやる心を育てる指導や、責任を果たしたり、仲間と協力したりする力を育てる指導等、実践やその意味付けを、保護者にも紹介していくことが考えられる。

○項目 15 に関して、保護者からの相談、連絡に対してこれまで以上に丁寧に対応していく必要があることが伺えた。

○ 保護者が家庭生活に対して

A:そう思う B:少しそう思う C:あまり思わない D:全く思わない ※学校評価アンケートと関連する項目 (%)

No	※	評価項目	A	B	C	D
1	1	家庭では、可能な限り保護者会に参加したり、各種たよりに目を通したりして、学校の教育や方針に関する情報を集めようとしている。	68.8	31.3	0.0	0.0
2	2 3	家庭では、子どもが将来、地域社会で生活することを見越して、家事や作業をさせたり、買い物や公共施設の利用等の社会経験を積ませたりしている。	35.3	47.1	17.6	0.0
3	4	家庭では、ねばり強く取り組む力を育てることを意識して子どもと関わっている。 (勉強や運動、作業などに取り組む姿を見取り、励ましや賞賛を与えるなど)	23.5	58.8	11.8	5.9
4	5	家庭では、人と関わる力や自他を思いやる気持ちを育てることを意識して子どもと関わっている。 (家庭での会話を増やす、いろいろな立場の人と関わる場を持つ、一緒に相手の気持ちを考える等)	41.2	41.2	17.8	0.0
5	6	家庭では、子どもの働く意欲を高めることを意識して関わっている。 (様々な仕事や働くことについて家族で話をしたり、一緒に仕事をしたり、任せた仕事をしたことに感謝の言葉をつたえたりするなど)	47.1	29.4	23.5	0.0
6	7	家庭では、子どもの卒業後の進路について家族で話し合ったり、職場実習の際の実習先への挨拶を確実にに行ったり、子どもに合った職場を積極的に探したりしている。	50.0	25.0	25.0	0.0
7	8	家庭では、子どもが規則正しい生活習慣や、健康な体を維持するための習慣(食事や運動等)が身に付くよう配慮している。 (生活時間の約束をつくり声を掛ける、一緒に食事を摂る、運動の場を設ける等)	35.3	47.1	11.8	0.0
8	9	家庭では、子どもの声に耳を傾け相談に応じようとしている。	58.8	29.4	11.8	0.0
9	10	家庭では、子どもが「自分が必要とされている」という気持ちをもてるよう関わっている。	58.8	29.4	11.8	0.0
10	11	家庭では、社会のルールやマナーを子どもの実態に合わせて教えている。	47.1	47.1	5.9	0.0
11	12	家庭では、責任感が身に付くように子どもと関わっている。 (家庭の中で役割を与え、頑張りを見守り、認める。)	35.3	47.1	17.6	0.0
12	13	家庭では、学校だよりや白嶺分校だより、デイリーライフなどにしっかり目を通し、子どもの学校での様子をつかもうとしている。	50.0	43.8	6.3	0.0
13	14	家庭では、お子さんの障害や特性について理解し、本人に合った支援を行うように努めている。 (勉強会に出向く、医師や学校職員に話を聞く等)	52.9	47.1	0.0	0.0

〈よい点〉

○項目1に関して、多くの家庭で、可能な限り保護者会に参加したり、各種たよりに目を通したりして、学校の教育や方針に関する情報を集めようとしてくださっている。

○項目8、9に関して、家庭では、子どもの声に耳を傾け、子どもが「自分が必要とされている」という気持ちをもてるよう関わって下さっている。

〈要望や課題〉

○項目2、3、7に関して、学校からの働きかけには肯定的な評価であるが、家庭では継続したり働きかけたりすることに困難さを感じている様子が見られる。

○項目4に関して、保護者、職員共に、「人と関わる力や自他を思いやる気持ちを育てることを意識して子どもと関わっている。」がやや低い評価である。相手に合わせた会話や相手の気持ちを考えることの苦手さに対しての関わりに困難さを感じている様子が見られる。

今年度の教育活動・取り組みについて

〈成果について〉

- 新型コロナウイルス感染症が5類移行後も日常の学習、生徒集会など全校が集まる場面において、マスクの着用、換気、消毒を丁寧に行ってきた。入学式や学習発表会などの行事でも、時間の短縮、会場を分散しリモートを併用するなどの感染症予防に取り組んだ。
- 修学旅行、妙高生活体験学習なども感染対策を講じながら日程通りに開催することができた。
- 職場実習を春と秋に行うことができた。実習先へ保護者の同意の下に個別の支援計画を渡すことで、生徒の実態に合わせた実習を組んでいただくことができた。
- 白嶺高校の生徒やひすいの里総合学校との対面での交流会を行うことができた。白嶺高校の生徒との交流では、一緒にお菓子作りをすることもできた。
- 昨年度に引き続き、保護者会の際に非常時を想定した生徒引き渡し訓練を行うことができた。
- 一人一台のタブレット端末を授業で活用する機会が増えてきている。職員にも一人一台のタブレット端末が貸与され、連絡事項の共有や指導場面での活用に取り組めた。
- オープンスクールや地域・企業向け学校見学会に多くの参加があり、生徒の礼儀正しさや学習活動に真剣に取り組む姿に対して、沢山の称賛の感想をいただいた。

〈今後の課題（職員の評価アンケートから）〉

- 生徒への指導に際し、「社会への移行期」を意識した関わり方をしていく必要がある。
- 生徒一人一人への指導、対応について生徒の状態が多様化している中で、生徒の状態の情報をこれまで以上に丁寧に共有し、指導や支援の方策を共通理解することが必要である。
- 1月の地震の際の保護者や生徒との連絡について、電話連絡だけでなくメール等で連絡ができた方がよい。
- 進路部とPTAの共催で進路講話を開催できたが出席が少なかった。内容が良かっただけに残念だった。保護者のニーズに沿った情報提供をしていく必要がある。
- オープンスクールや地域・企業向け学校説明会に多くの参加があったが、それらを保護者に伝えてこなかった。学校だよりなどの内容を検討する必要がある。

〈次年度に向けて〉

- 修学旅行については4月25日、26日の日程での実施で計画している。方面については地震のこともあり、群馬県・長野県方面で検討している。
- オープンスクールや地域・企業向け見学会やいじめ対策に繋がる取組を保護者に紹介していく。また地域にも分校の活動をこれまで以上に紹介したり発行方法を工夫したりすることで、理解・啓発を図っていく。
- 学校からの連絡を一斉メールで出来るように準備をしていく。
- これまで以上に職員全体で生徒に関する情報の共有をきめ細かく行うと共に、多様な状態に応じた適切な指導ができるよう職員研修を充実させていく。
- 個別懇談や支援会議等で保護者の思いを丁寧に聴き取り、同一步調で対応していく。
- 保護者会、面談、たより等を通じて、学校の教育方針について丁寧な説明をしていくと共に、地域への発信活動を継続し、それらについても保護者に情報提供していく。